

# A 基礎 竹の中の小さな人

練習 全8問 目安20分

仮名遣い・古語・動作を一つずつ確かめる。

字数指定のない答えは、必要な内容を簡潔に書きましょう。選択問題は指定された記号を○で囲みます。

## 本文 竹取物語

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

① 今は昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて、竹をとりつつ、万の事につかひけり。名をば讃岐造磨となんいひける。その竹の中に、本光る竹ひとすぢありけり。怪しがりて寄りて見るに、筒の中ひかりたり。それを見れば、三寸ばかりなる人いと美しうて居たり。

注 翁（おきな）＝年をとった男。讃岐造磨（さぬきのみやつこまる）＝翁の名。

注 本（もと）＝根元。三寸（さんずん）＝長さの単位で、およそ9センチメートル。

注 原文の漢字・仮名・句読点は、教科書によって異なる場合があります。

問1 「いふ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

\_\_\_\_\_

問2 「つかひ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

\_\_\_\_\_

問3 「万の事」の「万」に当たる意味を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一つだけの
- イ 一万回の
- ウ さまざまな
- エ 未来の

問4 「いと美しうて」の「いと」の意味を、現代の言葉で書きなさい。

\_\_\_\_\_

問5 「竹をとりつつ、万の事につかひけり」では、だれが竹を取っていましたか。

\_\_\_\_\_

問6 翁が子を見るまでの順序を、次の記号を並べて答えなさい。ア 竹に近寄る  
イ 根元の光る竹を見つける  
ウ 筒の中を見る

\_\_\_\_\_

A 基礎 竹の中の小さな人 続き

練習 全8問 目安20分 本文・注：問題1ページから

問7 子の大きさを表す部分を、本文から「三寸」で始まる8字で抜き出さない。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

8

問8 小さな子を描く「美しうて」の意味として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 強くたくましくて

イ 小さくかわいらしくて
- ウ 技術が優れていて

エ 珍しく恐ろしくて

## B 標準 翁の言葉と暮らし

練習 全8問 目安25分

会話の相手・判断の理由・時間の前後をつかむ。

## 本文 竹取物語

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

① 翁いふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る、竹の中におはするにて知りぬ、子になり給ふべき人なんめり。」とて、手にうち入れて家にもてきぬ。妻の嫗にあづけて養はす。美しきこと限なし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。竹取の翁この子を見つけて後に、竹をとるに、節をへだててよ毎に、金ある竹を見つくること重りぬ。かくて翁やうやう豊になりゆく。

注 嫗（おうな）＝年をとった女。ここでは翁の妻。籠（かご）＝編んで作った入れ物。

注 なんめり＝であるようだ。もてきぬ＝持って来た。節をへだててよ毎に＝節と節の間ごとに。金（こがね）＝黄金。

注 原文の漢字・仮名・句読点は、教科書によって異なる場合があります。

注 重りぬ（かさなりぬ）＝重なった。何度も起こった。

問1 会話中の「われ」が指している人物  
を書きなさい。

問2 「おはする」「なり給ふ」で高められているのはどれですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 竹を取る翁

イ翁の妻

## ウ 物語の語り手

エ 竹の中にいた子

問3 翁は何を手がかりに、自分の子になるはずの人だと考えましたか。「自分が」で書き始め、35字以内で説明しなさい。

[illegible]

B 標準 翁の言葉と暮らし 続き

練習 全8問 目安25分 本文・注：問題3ページから

問4 「妻の嫗にあづけて養はす」を、「翁は」で書き始め、だれに何をさせたかが分かるように訳しなさい。

問5 子を籠に入れる理由を示す部分を、本文から6字で抜き出しなさい。

6

問6 黄金のある竹を繰り返し見つけるようになったのは、何をした後ですか。本文に沿って答えなさい。

- 問7 この本文だけから確かに分かることを一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 翁は黄金のある竹を何度も見つけた。
  - イ 子は恩返しのために竹を黄金に変えた。
  - ウ 嫗は子を育てることを嫌がった。
  - エ 翁は黄金を得るために子を連れて帰った。

問8 末尾の「かくて」は、どの出来事を受けて翁の変化につないでいますか。30字以内で説明しなさい。

18

30

## C 応用 成長と家の変化

練習 全8問 目安25分

描写を根拠に、子の特別さと翁への影響を説明する。

### 本文 竹取物語

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

① この児養ふほどに、すくすくと大になりまさる。三月ばかりになる程に、よきほどなる人になりぬれば、髪上などさだして、髪上せさせ裳着す。帳の内よりも出さず、いつきかしづき養ふほどに、この児のかたち清らなること世になく、家の内は暗き所なく光満ちたり。翁心地あしく苦しき時も、この子を見れば苦しき事も止みぬ。腹だたしきことも慰みけり。

注 髪上（かみあげ）・裳着（もぎ）＝当時の女子の成人に関わる儀式。ここでは髪を結い上げ、裳という衣服を着ける。

注 帳（ちょう）＝室内を仕切るための垂れ布。いつきかしづき＝大切に世話して。かたち＝容姿。清ら（けうら。きよらとも）＝非常に美しい。括弧内は歴史的仮名遣い。「けうら」の現代の読みは「きょうら」。

注 原文の漢字・仮名・句読点は、教科書によって異なる場合があります。

注 大（おほき）に＝大きく。括弧内は歴史的仮名遣い。現代の読みは「おおき」。

注 さだして＝手配して、準備して。ここでは髪上げなどの儀式の準備をする。

問1 「三月ばかり」は、この場面ではどのくらいの期間ですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 3月の一か月間      イ 三週間ほど  
ウ 三か月ほど      エ 三年ほど

問2 「すくすくと大になりまさる」の主語を答えなさい。

\_\_\_\_\_

問3 「よきほどなる人になりぬれば」の「よきほど」は、後に行われたことを手がかりにすると何にふさわしいころですか。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

## C 応用 成長と家の変化 続き

練習 全8問 目安25分 本文・注：問題5ページから

問4 「家の内は暗き所なく光満ちたり」の内容に合うものを選び、記号で答えなさい。

ア 家の一室だけが暗かった。

イ家の中に暗い場所がなく、光で満ちていた。

ウ 暗くなったので明かりを消した。

エ 外の光が家に入らなかった。

問5 「この子を見れば苦しき事も止みぬ」を、翁を主語として現代語に訳しなさい。

---

問6 「腹だたしきことも慰みけり」は、翁にどんな変化が起きたことを表しますか。25字以内で説明しなさい。

[illegible]

問7 子の成長が普通とは違うと分かることを、期間と成長後の姿に触れ、40字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8 この子が翁に与える心の面での影響を、本文の二つの変化に触れて45字以内で説明しなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |    |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  | 18 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  | 36 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  | 45 |  |  |  |  |  |  |  |  |    |

## D 確認テスト 出会いから養育へ

確認テスト 全8問 目安30分 100点

語句・人物・理由・描写を自力で読み取り、100点で確認する。

### 本文 竹取物語

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

① 今は昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて、竹をとりつつ、万の事につかひけり。名をば讃岐造磨となんいひける。その竹の中に、本光る竹ひとすぢありけり。怪しがりて寄りて見るに、筒の中ひかりたり。それを見れば、三寸ばかりなる人いと美しうて居たり。

② 翁いふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る、竹の中におはするにて知りぬ、子になり給ふべき人なんめり。」とて、手にうち入れて家にもてきぬ。妻の姫にあづけて養はす。美しきこと限なし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。竹取の翁この子を見つけて後に、竹をとるに、節をへだててよ毎に、金ある竹を見つくること重りぬ。かくて翁やうやう豊になりゆく。

③ この児養ふほどに、すくすくと大になりまさる。三月ばかりになる程に、よきほどなる人になりぬれば、髪上などさだして、髪上せさせ裳着す。帳の内よりも出さず、いつきかしづき養ふほどに、この児のかたち清らなること世になく、家の内は暗き所なく光満ちたり。翁心地あしく苦しき時も、この子を見れば苦しき事も止みぬ。腹だたしきことも慰みけり。

注 翁（おきな）＝年をとった男。讃岐造磨（さぬきのみやつこまろ）＝翁の名。

注 本（もと）＝根元。三寸（さんずん）＝長さの単位で、およそ9センチメートル。

注 姫（おうな）＝年をとった女。ここでは翁の妻。籠（かご）＝編んで作った入れ物。

注 なんめり＝であるようだ。もてきぬ＝持って来た。節をへだててよ毎に＝節と節の間ごとに。金（こがね）＝黄金。

注 髪上（かみあげ）・裳着（もぎ）＝当時の女子の成人に関わる儀式。ここでは髪を結い上げ、裳という衣服を着ける。

注 帳（ちょう）＝室内を仕切るための垂れ布。いつきかしづき＝大切に世話して。かたち＝容姿。清ら（けうら。きよらとも）＝非常に美しい。括弧内は歴史的仮名遣い。「けうら」の現代の読みは「きょうら」。

注 原文の漢字・仮名・句読点は、教科書によって異なる場合があります。

注 重りぬ（かさなりぬ）＝重なった。何度も起こった。

注 大（おほき）に＝大きく。括弧内は歴史的仮名遣い。現代の読みは「おおき」。

注 さだして＝手配して、準備して。ここでは髪上げなどの儀式の準備をする。

## D 確認テスト 出合いから養育へ 続き

**確認テスト 全8問 目安30分 100点 本文・注：問題7ページから**

問1〔10点〕②の「あづけて」を現代  
仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2〔10点〕 ②の「やうやう」の意味を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 急いで                      イ 何となく  
ウ だんだん                 エ たまたま

問3〔10点〕①の「それを見れば」の「それ」が指すものを、具体的に答えなさい。

問4〔10点〕 ②から、子のかわいらしさがこの上ないことを表す一文を、句点を含めず8字で抜き出しなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

8

問5〔15点〕②で、翁が子を家に連れ帰った判断の根拠を、会話をもとに45字以内で説明しなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 18 |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 36 |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  | 45 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |

問6〔15点〕③の「この児養ふほどに、すくすくと大になりまさる」を、現代語に訳しなさい。

## D 確認テスト 出合いから養育へ 続き

**確認テスト 全8問 目安30分 100点 本文・注：問題7ページから**

問7〔15点〕 ③の子の特別さについて、成長と光の二点を、55字以内で説明しなさい。

|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |
|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 18 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 36 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 54 |
| 55 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |

問8〔15点〕 本文全体から分かる翁の変化として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア子を見つけてから竹を取らなくなり、家の外で暮らすようになった。

イ子を迎えた後、暮らしが豊かになり、子は苦しさを和らげる存在にもなった。

ウ 黄金を見つけるため、子を竹林に戻して待つようになった。

エ 子の成長が早いため、子を恐れて会わないようになった。

得点 / 100点

解き直した日                      月                      日